

伊達市環境審議会会議録 要旨

会議名称	平成26年度第2回伊達市環境審議会		
議 題	○議事 ・平成26年度版伊達市環境白書について ・市民の意見書について		
開催日時	平成26年11月7日（金）14時～15時30分		
場 所	市役所第2庁舎第1会議室		
出席者	出席委員10名、欠席委員5名		
	所管部課名	経済環境部環境衛生課3名	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	なし
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【会議の概要】</p> <p>1 開 会</p> <p>2 諮 問 市長（代理 経済環境部長）より会長へ諮問書交付</p> <p>3 会長挨拶</p> <p>4 議 事</p> <p>（1）平成26年度版伊達市環境白書について 事務局より前回と同じく、平成26年度版伊達市環境白書について再度説明。</p> <p><質疑・応答></p> <p>○委 員： 7ページの公害防止協定に基づき次の事業所の調査を行いましたがあるが④について具体的な事業所名はないが。</p> <p>●事 務 局： 後で2つのゴルフ場の事業所名を追加する。先程、環境白書の正誤表を配っておりますが、審議会等で修正があれば随時、市のホームページで公表している環境白書は修正しますのでご了解をお願いします。</p> <p>○委 員： ここでは、ふれられていないが、最近、再生エネルギーの開発は盛んであり伊達市における風力発電やソーラーパネルが設置されており現状がわかる総エネルギー数や面積、どのくらいの家庭で賄えるとか北電の買い上げとか、ここに載ってくるのかどうかわかりませんが。</p> <p>●事 務 局： 市の公共施設は資料編56ページに木質ペレット関係、57ページに太陽光発電を掲載しています。売電等は載せておりませんが今後把握できるものは載せるようにします。</p> <p>○委 員： 4月から小型家電リサイクルが始まったが、どんな状態ですか。</p> <p>●事 務 局： 本庁舎と大滝総合支所でボックス回収により収集しており、ボックスに入らないパソコン等は環境衛生課の窓口に持ってきてもらっています。当初予定より多く集まっており今後も継続する予定です。</p> <p>○会 長： 手数料はいくらかかるのか。</p>			

- 事務局： 登別のリサイクル業者が月何回か引き取りに来てもらい、キロ1円で市が買ってもらっています。
- 委員長： 報告書として体裁を整えるのであれば「はじめに」があつて「おわり」もあつて良いのでは。風力発電で単に何キロワットを発電していると書く形でなく結果をどのように評価しているのか書くべきでは。
- 「刊行にあたって」と「はじめに」の内容がかみ合っていないように思え結果に対して先をみているような書き方で、実際、再生可能エネルギーは取り組みをしていると思われるが、例えば太陽光発電にしても、ただ発電してますよだけでなく、これからも続けるのか伊達の地域性とか優位性があるのか、意見書にもあつた風力発電が5基から25基に増えるが5基の成果を踏まえ25基に増やすんだと言える文言を盛り込んで。
- もう一つは、市長が前回のあいさつで、伊達は田舎であると言つたがこの環境白書にあつては田舎でなく、道内で大きな火力発電所があつてきれいな自然を守っており、行政の努力がわかるように書くと意見書もかなりの数出なくなるのでは。
- また、単位の表記が不揃いである。
- 事務局： 前段については今後内部検討します。誤字脱字は今後点検し訂正があればホームページを修正します。
- 会長： 伊達市民の方々は環境に関心を持っており進んでいる。室蘭地区ではパイオニアと思っている。ただ、犬の糞だけは困っており、私が住んでいる近くの公園に室蘭の方から車で来て犬を放し飼いにしている。
- 委員長： 伊達に去年来たばかりで、末永に住んでおり歩いて犬の糞を踏むことはないが、道の脇にゴミが捨てられて多少汚れている。
- 会長： 地元黄金では、誰かが投げると他の人も投げるので、きれいにするよう住民は気を付けている。
- 委員長： 2年前から毎日ではないが、夕方、何かを燃やすような臭いがする。
- 事務局： 話しがあれば、現地調査し対応します。
- 委員長： 採石して東北に運んでいるが黄金にあつた採石場は倒産し、そのままになっており雨が降れば泥水は流れており、市としてどう考えているのか。
- 事務局： なかなか難しい問題で、市に権限はなく北海道が許可している。黄金は裁判中であり新しい事業所がやると言っているが、いずれ緑化することになっている。
- 委員長： 稀府の採石場の下に砂防ダムはあるが詰まっております、事業所に言っても自然に詰まったと言われる。市に話すと道と協議していると言われる。採石のため木も伐採しており、今後考えていかなければと思つている。
- 会長： 関連するが意見書1にも出てくるが、誰が悪いというわけではなく、私有財産であり、国民市民の倫理観の問題でもある。

(2) 市民の意見書について

事務局より各意見書の要旨等を次のとおり説明

(意見書1)

- ・実践懇話会廃止に替わる市民参加組織の立ち上げ
- ・伊達市地域新エネルギービジョンの平成27年度改定
- ・自然環境の保全
- ・環境教育

(意見書2)

- ・採石についての心配

(意見書3)

- ・自然環境保全の調査等
- ・アヤマ川のカルミの件→担当課（都市整備課）より別紙のとおり回答あり

<質疑・応答>

- 委員： 採石に関しては、北海道が許可するため伊達市には権限がないと言っているが、将来的に現状回復等取り返しがつかなくなってくるのでは。
- 委員： 生物多様性保全条例は道内で3自治体設けており、法律も変われば条例も変わってきており、もし必要であれば伊達市として検討されれば意見書に対する基本的な対応がでてくるのでは。
- 委員： 自然保護はなかなか難しい。かつて私有地を買ってゴルフ場開発はあったが、採石場も想定外の雨が降ったり、防ぎきれない。条例を作っても国が決めた法律があれば何をやっても良いことになっているので、すごく難しい。
- 会長： いずれにしても、これは難しい。一人一人が原点だと思うし極端な話人類がなくなる限り解決しない。自然破壊は誰が悪いのではなく最終的には市民一人一人の考えであり、そういうムードができる世の中にしていかないと結局、最終的には哲学の問題と思う。
- 事務局： 条例を定めても止めることはできない。最終的には市で採石場の土地を買うしかないが無理な話です。市としては地域の了解を得るようにとしか言えない。
- 委員： 昔は国の予算でダムを造ってはダメと言われたが、原発事故によりダムを造っても誰も反対しない。今回の電気料値上げで私の事業所は冷蔵庫使用など年間1,600万円増になり負担が大きい。原発に替わるエネルギーができないうちは原発によるほうが安いのでは。若生町のソーラー発電で一般家庭の350戸しか賄えなく微々たるもので、風力発電は羽根が壊れたりしていると障害がある。
- 委員： 伊達は火力発電所があり送電線も走っており、風力や太陽光が発電すれば火力発電所の出力を抑えることができる地域の特異性があるので、そういうことを報告書の中に何のためにするのか、どういう利点があるのか分かるように書いていただければありがたい。
- 委員： 意見書の中で言っているが、生態系を調査する考えはあるのか。

- 会 長： 色んな問題も出てくるが、工大の先生に聞いたら、海岸への泥水を防ぐためにダムを設置したら砂がなくなり栄養であるミネラルもなくなり海藻類、小魚もいなくなっている。
- 委 員： それは大昔の話で、川の氾濫を防ぐために直線でコンクリート化し雨水が出ると一気に流れ海岸浸食が激しく砂浜はなくなっており、それを防ぐため海に波消しブロックを造っており、それは間違いではと感じます。
- 会 長： 先生は人間が全てをつくっており、環境問題は楽しくまた便利になればなるほど地球を壊し、しっぺ返しがかかるのでは。
- 委 員： 平成19年にエネルギービジョンで行動計画をたてているが、今の実績として一回精査が必要では。その上で今の対策を継続していくのか新たな対策を追加していくのか判断してはと思います。
- 事 務 局： 市としての考えはあるのかとのことですが、市としては現状の把握や調査、数値目標設定は必要と考えますが、この審議会の審議結果をまとめてもらって市はそれに沿う形をとりたいと考えています。
- 会 長： 皆さんからの意見を出してもらい、皆さんの意識向上をはかり、少しでも前に進むような意見をお願いしたい。

5 その他

- 事 務 局： 例年どおり今年も事務局で答申案を作成後、事前に送付し、次回会議は11月下旬から12月上旬を予定しています。
- 委 員： 前回、市長が言っていた環境白書の継続についても次回で良いのか。
- 事 務 局： もう少し間隔をあけてはどうですかとのこともあり、ご意見があればお願いします。
- 委 員： これに替わる公開されているものがあれば5年に1回でも良いが、なければ、毎年行政として何らかの形で出した方が良いのでは。
- 会 長： 毎年だとマンネリ化してしまし、5年10年になると忘れて興味がなくなりさめてしまう。方法は色々あると思う。
- 事 務 局： この形で3年、5年ではなくて、例えば5年間の数値目標を盛り込んだ冊子にしたら、毎年ローリングして審議していただきますので、これを出して5年間審議会が開かないのではなく、毎年毎年冊子を出す必要があるかどうかということです。
- 委 員： 冊子は毎年でなく、5年位で良いのでは。5年間の中でこういう所が変わっていったのでの方が審議しやすいのでは。
- 会 長： 次回もありますので、委員の皆さんにはもう一回考えてもらうことにして、長い間色々な議論をいただき有難うございました。

6 閉 会